

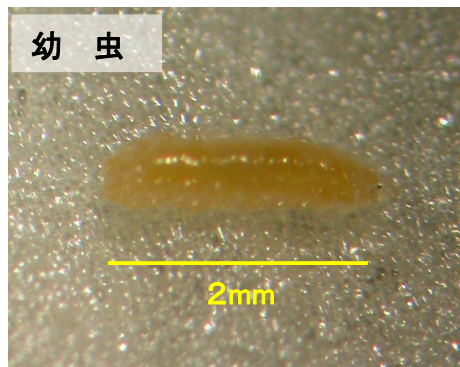
平成22年度病害虫発生予報第6号(9月予報)

今月のトピックス

ランツボミタマバエ(洋ラン)

学名 : *Contarinia maculipennis*

幼 虫



2mm



被害蕾



成 虫

生態と被害

本種は1989年3月に名護市においてデンファレで発見された。成虫は1.5mmくらいの蚊に似たハエで、夜行性で夕刻に羽化して交尾する。交尾後の雌は開花前のつぼみに産卵し、ふ化した幼虫はつぼみの内側を食害する。終齢幼虫は体長2mmほどで、つぼみから飛び出して地中や植え込み材料等でまゆを作り蛹になる準備をする。気温の高い時期はすぐに蛹化して2～3週間で羽化するが、低温になると蛹にならずに長期間まゆの中で耐えることができる。このため開花が終わり、発生が終息したように見えても、終齢幼虫が生存しており翌年再び発生することもある。多くの薬剤に抵抗性を示し、防除効果が上がりにくく、一度発生すると根絶は困難である。

加害されたつぼみは多くは開花しないで落下するか、開花しても奇形花となり商品価値がなくなるため、本種は沖縄県で洋ランを栽培する上で最も重要な害虫のひとつである。海外ではラン以外にハイビスカス、トマト、ナスなどのつぼみを加害することが知られている。沖縄ではニガウリのつぼみへの寄生が確認されているが、現在のところ実害は報告されていない。

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>